

令和5年度第1回「木曾悠久の森」管理委員会 議事概要【公表】

1 開催日時 及び場所	令和5年11月29日(水) 15:10~16:00 木曾森林管理署 多目的ホール
2 出席委員 (五十音順) (敬称略)	飯尾 歩 (中日新聞 論説委員) ※Web 会議システムにより参加 池田 聡寿 (池田木材(株) 代表取締役社長) 大浦 由美 (和歌山大学観光学部 教授) ※議事2及び議事3座長 大住 克博 (鳥取大学農学部 名誉教授) 大屋 誠 (上松町長) 岡野 哲郎 (信州大学農学部 教授) 勝野 智明 (木曾官材市売協同組合 理事長) 早川 正人 (付知町まちづくり協議会 会長) 正木 隆 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究ディレクター) 藤森 秀彦 (信濃毎日新聞社 編集委員) 山本 博一 (東京大学 名誉教授) ※議事1座長 横山 隆一 ((公財) 日本自然保護協会 参与) (12名)
3 議事及び 概要	≪審議事項1 特殊用材の需要・要望に対する対応について≫ (座長による専門部会における審議の概括) ・ 合同専門部会の審議において、資料3-1「伐採計画(案)【御杣始祭】」の3「伐採等による木曾悠久の森(特にコアa、b)への影響」については、現地の状況によりヒノキの天然更新の確実性が認められないことから、「また、近接する前回の実施箇所における、現在に至る更新状況を踏まえれば、ヒノキを中心とした多様な樹種による天然更新が可能と考えられる。」の記述のうち「ヒノキを中心とした」の部分削除することとされた。 また、悠久の森としてどのような森林を目指していくのかということについて、ヒノキを中心とした森林を目指していきたいとの考えもあれば、必ずしもヒノキのみにこだわらず、立地によってはサワラを中心とした天然更新もあり得るとの意見もあった。 (委員からの主な意見等) ・ 式年遷宮に係る特殊用材を供給し得る候補地の範囲がある程度決まっているのであれば、「特殊用材の需要・要望に対する対応手順」のフローを、時代に合わせて改定することも考えられる。また、候補地の範囲内の条件を満たし得る大径木を毎木管理するなど、資源の持続性の確認方法を検討していく必要がある。 ・ 歴史的な経緯や地域における意義等を踏まえれば、木曾谷において候補木を選定することは理解できるものの、今後の式年遷宮においても赤沢地区のコアaからの供給を続けることの是非や、木曾谷全体で候補木を探していくこと、さらには赤沢地区をコアaのままにしておくことの是非まで含めて、地域の関係者や住民の皆さんとも議論を深めていくことができれば良いと考える。 ・ 合同専門部会において、神宮司庁から説明等を受けたことは有益であった。 ・ 本委員会において、式年遷宮の関連行事を国民的伝統行事として認めていることについて、国民に対して明確な説明ができるよう、その理由や基準を今後に向

けて明確にしておく必要があると考える。

※ 資料3-1から3-3の伐採計画(案)について、資料3-1の一部修正を含め、出席委員全員の同意をもって承認された。

なお、資料1の対応手順に基づく「中部森林管理局長へ意見を提出」については、本委員会に局長が出席していることから、本委員会の審議をもって提出に代えることが承認された。

《審議事項2 赤沢自然休養林散策路(駒鳥コース)の不通区間の迂回について》

(座長による専門部会における審議の概括)

- ・ 合同専門部会での議論では、人気コースである駒鳥コースの迂回路を早急に設置することについて、地元自治体や地域関係者、来訪者等からの強い要望もあることから、迂回路が必要との意見で一致した。また、老朽化により通行不能となっている木橋は、昔の木馬道や森林鉄道の技術を彷彿させる貴重な構造であると考えられることから、復元や補修の可能性を含めて検討することが確認された。

(委員からは特段の意見なし)

※ 資料5の「赤沢自然休養林 駒鳥コースの不通区間の迂回について」に基づく迂回路の設置について、出席委員全員の同意をもって承認された。

《審議事項3 酸素同位体比分析による生育年代の推定の取組について》

(座長による専門部会における審議の概括)

- ・ この取組により、古代の木曾谷の森林において樹齢1,000年以上のヒノキが存在していたことが明らかになったことで、「木曾悠久の森」の取組の意義が再確認されるとともに、我々が目指すべき温帯性針葉樹林の姿に対する示唆を得ることができた。また、来訪者をはじめ、広く国民に取組内容を発信することの重要性が確認された。

(委員からは特段の意見なし)

※ 資料6の「酸素同位体比分析の取組について」に基づく古い根株の年代推定の取組を進めていくこと及び遊歩道や看板の設置について、出席委員全員の同意をもって承認された。

—以 上—